

第1回 高1英語

総 評

今回の試験では、総合的な英語力を測るため、リスニング、文法・語法、英作文、長文読解など多様な形式で出題している。基本的な文法・語法の正確な知識だけでなく、それらをもとに、伝えたいことを英語で表現する力、試験時間内に与えられた英文を理解し、読み取った内容を的確にまとめる力を求めている。高2に向けて、これからは、英文1文ごとの理解だけでなく、パラグラフ、英文全体の文脈を意識した読解練習をしてほしい。今回の結果は、総得点だけでなく大問ごとの出来や誤答の内容もきちんと確認しておこう。

問題別講評・採点基準

1 リスニング

ナチュラルな読み上げスピードによる放送であった。放送前に設問に目を通し、注意して聞くべきポイントをあらかじめ予測しておく必要がある。計算が必要な設問は適宜メモを取りながら聞くこと。聞き取りにくかった箇所については、放送された英文を音読して復習しておこう。

A

英問英答形式の設問で、選択肢の英文がやや長く、英文を聞きながらの素早い判断が求められる。放送された英文自体は難解なものではないが、映画に関する情報、2人の映画に対する評価について正確に把握する必要があった。

B

Part 1

(3) 設問文中の NOT true を見落とさないこと。

Part 2

ディクテーションでは、文脈と単語の知識も活用して推測することが必要となる。つづりミスの減点は各ー1点であるが、その他の単語の抜けや単語の誤りは配点分の減点とした。

(1) 特定の日付の前には on をつける。

(3) free of charge は「無料で」の意。

2 文法・語法

文法事項は、受動態、助動詞、不定詞／動名詞、仮定法、動詞の語法など広い範囲を含めた。(5)や(9)は文脈も把握する必要がある。イディオムの意味も復習しておこう。

3 英作文

この大問では、語彙・構文の正確な知識と、それらを組み合わせて適切な英文を作り、表現する力を問うている。

A 整序英作文

採点は、部分ごとの加点は行わず、英文全体として意味を成さない解答は配点分の減点とした。

(1) in such a hurry that … という語順に注意。

(2) which way to choose は名詞句で、動詞の目的語になることを確認しておこう。

(3) 間接疑問文は<疑問詞+S+V>の形になる。

(4) 暗唱できるレベルにまでしておきたい構文。

B 条件付き英作文

会話文の一部を埋める形式で、グラフの数値の変化や空所前後の文脈のつながりを考えて書くことが条件。グラフの情報を不足なく盛り込めていたか、言いたいことが採点者に伝わる英文だったか、返却された答案を振り返っておこう。

採点は、内容面と文法・語彙の面から減点法で行った。

(1) 空所後の「ゴミが増えた理由」についての会話につなげるためには、①2012年以前と比べて、②ゴミの量が増加していること、の2点を含める必要がある。①、②いずれかのポイントが欠けていたり空所前の文とつながらなかったりした場合はー3点とした。

(2) 「学校内のゴミを減らすための、個人でできる具体的方策」をポイントとし、具体的でない内容は減点対象とした。つづりミスや文法面でのケアレスミスをしないよう、書き終えたら必ず見直すこと。

C 和文英訳

(1)、(2)ともに以下に示すパートに分け、減点法で採点を行った。

(1) ○成績が落ちたので ……3点

○父にひどく叱られて ……3点

○3日間ケータイを取り上げられました ……4点

「取り上げる」を take だけとした答案が散見された。take away といったイディオムを覚えておくと

英語表現の幅が広がるだろう。

(2) ○ケータイなしの生活を経験してはじめて

……5点

○いかにケータイに依存していたかがわかりました

……5点

「依存していた」を *depend* など現在時制で表した答案が多々見られた。時制のケアレスミスには十分注意を払うこと。

4 長文読解

引っ越し先で知り合った女の子、筆者の父母とのやりとりをもとに、筆者が物を盗むに至った心理を描写した文章。登場人物の発言の意図を正しく把握することが大切である。設問で取り上げた下線部は内容理解において重要な箇所なので、復習の際はダミー選択肢についてもよく読み、どこが本文と異なるのかをはっきりさせておくと理解が深まるだろう。なお、出典は今年度ノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさんの自伝である。余力のある人は原書を読んでみてほしい。

(3) 和訳問題。以下に示すパートに分け、減点法で採点した。

○ Are you trying to bring shame on us ……5点

○ that we can't afford to buy such things

……3点

bring shame on O は「O に恥をかかせる」の意。

「恥を持ってくる」など不自然な訳出は減点対象とした。

(4) 本文の *Safina is younger than you and you should have taught her better* 部分が参照箇所。

「誰に」, 「何を」, 「どうする」を解答に含めること。

<should have+過去分詞> (…すべきだったのに (しなかった)) の意味を正しく覚えておきたい。

5 長文読解

筆者が自身の経験談を交えながら失敗から学ぶことの大切さを述べた英文。

(1) 和訳問題。以下に示すパートに分け、減点法で採点した。

○ The sooner you do this ~, the better ……8点

○ after recognizing your mistake ……4点

this の内容を正しく訳出できていないものは4点の減点とした。this は「謝ること」を指している。

(3) 本文では① I apologized ② I appreciated

the feedback ③ I told her it was helpful to know I had inadvertently misrepresented myself. が参照箇所。筆者の「行動」を問うているため、③で「自分の熱心さが誤解を招いたと知ったこと」などとしたものは減点対象とした。

(4) 和訳問題。以下に示すパートに分け、減点法で採点した。

○ those who show that they are willing to learn

……6点

○ can turn negative situations around ……4点

○ very effectively ……2点

negative をカタカナ語で「ネガティブな」と直訳したものは減点対象とした。turn O around はここでは「O を好転させる」の意。「O を回転させる ; O を転がす」など不自然な訳出をしたものは減点とした。

第2回 高1英語

総 評

今回の試験では、総合的な英語力を測るため、リスニング、文法・語法、英作文、長文読解など多様な形式で出題している。基本的な文法・語法の正確な知識だけでなく、それらをもとに、伝えたいことを英語で表現する力や、英文を理解し、読み取った内容を的確にまとめる力を求めている。高2に向けて、これからは、英文1文ごとの理解だけでなく、パラグラフや英文全体の文脈を意識した読解練習をしてほしい。今回の結果は、総得点だけでなく大問ごとの出来や誤答の内容もきちんと確認しておこう。

問題別講評・採点基準

1 リスニング

ナチュラルな読み上げスピードによる放送であった。放送前に設問に目を通し、注意して聞くべきポイントをあらかじめ予測しておくことと取り組みやすかっただろう。また、特に計算が必要な設問は適宜メモを取りながら聞くこと。聞き取りにくかった箇所については、解答解説の放送内容を音読して復習しておこう。

A

英問英答形式の設問で、選択肢の英文がやや長いものもあり、英文を聞きながらの素早い判断が求められる。放送された英文自体は難解なものではないが、フィルの日々のスケジュールや、ハンナからのアドバイスなどについて正確に把握する必要があった。

B

Part 1

(2) 何と何の difference を問われているのかに注意。

(4) 設問指示 not を見落とさないこと。

Part 2

スペルミスの減点は各ー1点であるが、単語の抜けや聞き間違いは配点分の減点とした。ディクテーションでは、語彙や文法の知識で減点が避けられる場合があるので、積極的に活用したい。

(1) 過去形の動詞に続く that 節の中に空所があることに注意。

(2) 前置詞 at の後の動詞の形に注意。

2 文法・語法

文法事項は、形容詞、関係詞、動詞、前置詞、副詞の用法、倒置など広い範囲を含めた。中には、イディオムになっているものもある。文法・語法の知識に加えて、文脈の把握が必要な設問も複数あったことに注意。

3 英作文

この大問では、語彙・文法の正確な知識と、それらを組み合わせて適切な英文を作り、表現する力を問うていた。

A 整序英作文

採点は、英文全体として意味を成さない解答は配点分の減点とした。

(1) 無生物主語構文が使用できることを判断したい。また、steady は本問では収入を修飾する「安定した」という意味だが、性格や態度、目標などが「しっかりしている」という意味でも用いられる。

(2) 〈get + A + 過去分詞〉で「A を～の状態にしよう」という意味となる。この語順を正しく書いていない答案が多かった。しっかり覚えておくこと。

(3) All you have to do is ～、はよく使う表現なので、覚えておくことよい。

(4) what becomes of ～で「～がどうなるのか」という意味。of の位置を誤っている答案が多かったので、注意。

B 条件付き英作文

会話文の一部を埋める形式で、イラストの状況や空所前後の文脈のつながりを考えて書くことが条件。イラストから読み取れる情報を不足なく盛り込めていたか、言いたいことが採点者に伝わる英文だったか、返却された答案を振り返っておこう。

採点は、内容面と文法・語彙の面から減点法で行った。

(1) 「郷に入っては郷に従え」の意味を説明するには「(あなたは)その土地の習慣に従うべきである」というポイントを含める必要がある。ポイントを押さえているが文脈的に前後がつかない場合などはー2点、ポイントを押さえられていない場合はー4点とした。

(2) ①着物を着たこと、②茶会に行ったことの2点をポイントとし、どちらかが抜けていたり前後の

文脈がつかない場合は－3点とした。スペルミスや文法面でのケアレスミスをしないよう、書き終えたら必ず見直すこと。

(3) イラストから読み取れる状況について正しく説明できているかどうかのポイントであった。イラストの一部分の説明に終始しているものは、説明不足として－3点とした。

C 和文英訳

(1), (2) とともに以下に示すパートに分け、減点法で採点を行った。

(1) ○最近、自転車通勤をしている人をよく見かけますが ……4点

○健康に気を遣う人が増えている証でしょう ……4点

「～証でしょう」を訳出していなかった答案が散見された。英訳の際は、日本語のニュアンスをすべて訳出できているか最後の見直しが重要。

(2) ○慣れないことをする前に ……4点
○自分の年齢とよく相談すべきだったのです ……4点

「～と相談する」を直訳している答案が見られた。「～を考慮する」くらいに読み替えるなど、表面的な意味以上に日本語の意図に十分注意を払うこと。

4 長文読解

科学好きの男の子がハンバーガー店で女性が手話で話しているのを目にしたことをきっかけに、科学発表会での企画を思いつき、手話翻訳機を発明する話。発明にいたるまでの協力者についての情報や発明の具体的な内容も盛り込まれている。

主人公であるライアン・パターソンの発明に関して正しく把握することが大切である。設問で取り上げた下線部は内容理解において重要な箇所なので、復習の際は誤りの選択肢についてもよく読み、どこが本文と異なるのかをはっきりさせておくとう理解が深まるだろう。

(4) ②本文の説明に基づいて、「何を」「どうする」という内容を解答に含めること。match A with Bで「AをBに照合する」という意味なので、AとBの関係性を逆に取らないよう注意したい。

(5) 以下に示すパートに分け、減点法で採点した。

○ If I can make an innovative device that could help people out ……4点

○ particularly people with disabilities ……2点

○ I'll feel as though I've made a difference

……3点

as though …で「あたかも…のように」の意。仮定の意味合いがまったく出せていない場合は減点対象とした。

5 長文読解

クジラの親子のやりとりをもとに展開される、シニカルかつ抽象度の高い話であった。まずは文章の流れに沿って、それぞれの発言を正確に理解することが大切である。復習の際は、ダミー選択肢についてもよく読んで、どこが本文と異なるのかをはっきりさせておくとう理解が深まるだろう。また、この文章の“The Great Whale's Mistake”という題名についても、何が“mistake”であったのかを考えてみてほしい。

(3) 車が浜辺を走りながら、植物や鳥の巣を駄目にし、ゴミをまき散らしている様子が本文では述べられている。

(4) 誤答はaが多かったが、実際、母クジラと父クジラのどちらが厚い信仰心を持っていたかまでは言及されていない。

(5) bもまぎらわしかったが、クジラは人間に邪魔をされない場所を探していたとは述べられていないことに注意。

第3回 高1英語

総 評

今回の試験では、総合的な英語力を測るため、リスニング、文法・語法、英作文、長文読解など多様な形式で出題している。基本的な文法・語法の正確な知識だけでなく、それらをもとに、伝えたいことを英語で表現する力や、英文を理解し、読み取った内容を的確にまとめる力を求めている。高2に向けて、これからは、英文1文ごとの理解だけでなく、パラグラフや英文全体の展開を意識した読解練習をしてほしい。今回の結果は、総得点だけでなく大問ごとの出来や誤答の内容もきちんと確認して、今後重点的に学習していくべき内容を押さえておこう。

問題別講評・採点基準

1 リスニング

会話文、説明文ともに、分量の多い英文だったため、メモを取るのに苦戦した受験生が多かっただろう。放送前に設問にざっくりとでも目を通し、注意して聞くべきポイントをあらかじめ予測しておく取り組みやすい。聞き取りにくかった箇所については、解答解説の放送内容を音読して復習しておこう。

問題A

読み上げのスピードが実際の日常会話並みだったため、メモを取るのに苦戦した受験生が多かっただろう。英問英答形式の設問で、選択肢の英文がやや長いものもあるため、放送前に設問を確認したかどうかで差がついたと思われる。フレッドとスーザンの近況や、スーザンからのアドバイス、会話が繰り広げられている場所など様々な情報について正確に把握する必要があった。

(2) One is reading books. You should read widely and *deeply*. につられて *deep thinking* を含む a を選んだ誤答が大半を占めた。聞こえてくるキーワードが含まれる選択肢を選ぶのではなく、その選択肢の内容が正しいかという観点で選択肢を吟味すること。また、発言内容が少し後で訂正や補足をされていないかにも注意して聴くとよい。

問題B

中高生を対象とした市立美術館のイベントに関する説明文。

Part 1

(1) こちらも放送された 400 という数字をそのまま選んだ誤答が多かった。選択肢に数字があるからといって、聞こえた数字をそのまま解答する設問とは限らない。設問文に事前に目を通しておくとともに、後で落ち着いて計算し直せるよう、必要な情報をメモしておこう。

(3) 放送内容にある *because of some school event* の直後の *but* に注意。*that was not the reason* とすぐに訂正されていたので、b は不正解。

Part 2

ディクテーション問題。スペルミスや時制のミスは、単語の抜けや聞き間違い同様、配点分の減点とした。ディクテーションでは、語彙や文法の知識で減点が避けられる場合があるので、見直しを強化しよう。

(1) 品詞にまで意識を向けられたかどうかのポイントの1つだった。*interested* を用いた誤答が見られたが、前置詞 *into* の直後に続けられるのは名詞。

(2) *use of* を *youth* や *useful* としたものが見られたが、それでは文意が通らない。空所前後とのつながりや文全体の意味を考えて解答しよう。

2 文法・語法

文法事項は、知覚動詞、関係詞、動名詞、助動詞、受動態、形式主語構文など広い範囲を出題した。加えて、イディオムに関する設問や会話でよく用いられる定型表現も出題している。文法・語法の知識に加えて、文脈の把握が必要な設問も複数あったことに注意。

3 英作文

この大問では、語彙・文法の正確な知識と、それらを組み合わせて、条件に合った内容を英文で正しく表現する力を問うた。

A 整序英作文

1語でも間違えているものは配点分減点とした。

(1) 関係代名詞も語群に含まれていれば *the last person* … (…する最後の人) を思い出せたかもしれないが、目的格の関係代名詞は省略可能。整序英作文では「省略可能な関係代名詞」の存在を意識できるようにしたい。

(2) *know better than to* + 動詞の原形) に関する誤りが多かった。不定詞の応用表現として押さ

えておこう。

(3) kind enough to という組み合わせは書けていても配置する位置の誤りが目立った。Would you tell me だけでも丁寧な依頼にはなるが、kind enough to …の使い方まで考えて文を組み立てた。

(4) worth の位置を誤っている答案が多かった。The painting is worth buying. など、例文ごと覚えるようにするとよい。

B 条件付き英作文

会話文の一部を埋める形式で、イラストの状況や空所前後の文脈のつながりを考えて書くことが条件。イラストから読み取れる情報を不足なく盛り込めていたか、言いたいことが採点者に伝わる英文だったか、返却された答案を振り返っておこう。

採点は、内容面と文法・語彙の面から減点法で行った。

(1) 空所前の「何があったの?」という質問に答える問題。イラスト(a), (b)から、①寝坊した、②自転車がなくなっていたという2つのポイントを含める必要がある。ポイントを押さえているが誤った情報を含むものや、空所の前後と内容が矛盾する場合などは-3点、ポイントを押さえられていない場合は-6点とした。

(2) ①目覚まし機能付きのロボットであること、②そのロボットの具体的特徴を示していることの2点をポイントとし、どちらかが抜けている、または空所の前後と内容が矛盾する場合は-5点、ポイント2つともに不備がある場合は-10点とした。英作文では、スペルミスや文法面でのケアレスミスをしないう、書き終えたら必ず見直すこと。

C 和文英訳

(1), (2) とともに以下に示すパートに分け、減点法で採点を行った。

- (1) ○自分でやってみると ……2点
○のこぎりを使うのでさえ ……2点
○見かけほど簡単でない ……3点
○ことがわかりました ……2点

「見かけほど」の時制のミスが目立った。時制は最後の見直しで必ず確認しよう。

- (2) ○家具作りの楽しさ ……3点
○を息子に教える ……2点
○「には時間がかかりそうです」 ……4点

「家具」で語彙力の差が出た。スペルミスが出や

すい語だが、それとともに不可算名詞としても注意が必要なのでこの機会に覚えよう。

4 長文読解

ポーランド人の女性がヒトラーによる母国への侵略について書いた手記の一部。比喩的な表現を含む英文において、話の展開や細かい描写が理解できているかを問うた。

(4) 今回の英文を読み進める上で、世界史の知識や一般教養が助けになる部分もあったが、下線部が表す内容としては、自分の知識をまとめるのではなく、本文の内容をまとめること。

5 長文読解

「バイオミクリー」の考え方とその活用について述べた英文。

(1) 和訳問題。以下に示すパートに分け、減点法で採点した。

○Instead of trying to design new chemical cleaners that are less toxic ……5点

○a team of German scientists wondered ……3点

○how other organisms stay clean ……4点

構文はさほど複雑ではないが、design, cleaners, organisms など訳語の選択に迷う語が多いので、適切な訳語の選択ができていないものは減点対象とした。

(2) ① 含めるべきポイントは、「何と」=the structure of the lotus leaf, 「どの点で」=“mountainous” surface の2点。ポイントが1つ欠けていたら-6点とした。

② 該当箇所は rainwater washes the dirt away. rainwater, washes ~ away, the dirt にあたるものが1つ欠けるか間違えるごとに(-3)とした。

(3) ポイントとなるのは、植物と動物との間の関係で、それぞれの行動を通して物質を循環させる仕組みであること。光合成のみへの言及など、呼吸の説明がなく、双方向性を表す記述がないものは(-6)とした。

第4回 高1英語

総 評

今回の試験では、リスニング、文法・語法、英作文、長文読解など多様な形式を出題し、基本的な文法・語法の知識から表現力・読解力・記述力がどの程度ついているかを試すことで、総合的な英語力を測っている。今回は特に大問4の英文が長く、小説ということもあり、読み慣れていない人は時間配分に苦労しただろう。制限時間に対する演習量が多く、厳しい内容になってはいるが、プレステージを受験する難関大の志望者であれば、高校1年生のこの時期に、これだけの問題に対応できる実力をしっかりつけてほしい。また、模試なので得点差がはっきり出るよう、設問によっては部分点を排除し、かなり厳しく採点している。得点を見て落ち込んでしまうかもしれないが、これから何を重点的に復習すれば自分の英語の総合力・得点力が伸びるかを知ることのできる絶好のチャンスなので、大問ごとの出来や誤答の内容をきちんと確認して、今後の学習につなげよう。

問題別講評・採点基準

1 リスニング

長い英文の聴き取りに慣れていない人は、メモを取るタイミングに苦戦しただろう。放送前に設問に少しでも目を通し、注意して聞くべきキーワードやポイントをあらかじめ予測しておく取り組みやすい。聞き取りにくかった箇所については、解答解説の放送内容を音読して復習しておこう。

問題A

英問英答形式の設問で選択肢がやや長いものもあるため、聴き取る力以外に速読力も求められる出題となった。人物名がいくつか出てくるので、誰の考え・行動なのかを正確に把握する必要があった。

(2) 数字に関する問題で、センター試験と同じく、聴き取りだけでなく計算を要するものとした。月日の正しい理解も必要なので、情報の整理に時間をとられた人が多かったようだ。

問題B

「集中力」に関する説明文。concentration という単語がいたるところに出てくるのでテーマはつか

みやすかったと思うが、設問のレベルは高めに設定したので、満点は取りづらかっただろう。

Part 1

(1), (2) は特に、選択肢が複雑で、一読するとどれも正しいことを言っているように見えるため、吟味に時間がかかってしまったか。

Part 2

ディクテーション問題。スペリングミスや時制のミスは、単語の抜けや聞き間違い同様、配点分の減点とした。ディクテーションでは、語彙や文法の知識で減点が避けられる場合があるので、文法には自信がある人もここで間違えていた場合は見直しが必要である。また、既知の単語でも、音声ではうまく聞き取れないものについては音読の練習もすること。

(1) if you *will* relax とした誤答もあったが、条件を表す副詞節なので、will は使えない。feel relaxed が正しいが、SVC の C にあたる relaxed を relax という原形にしてしまい、過去分詞形の語尾の -ed の [d] の音を聞き逃した人が多かった。

(2) この設問も品詞にまで意識を向けられたかがポイントの1つだった。make a までは書けていても、difference を書けた人はごく一部であった。different とした誤答が大半だが、動詞の目的語であり、直前に冠詞 a があることから、続くのは形容詞ではなく名詞であることに気づいてほしかった。

2 文法・語法

基本的な問題を中心に、用法の詳細な理解が求められる出題とした。時制、不定詞、使役動詞、関係詞、否定、間接疑問など広範囲の文法事項に加えて、イディオムに関する設問や会話でよく用いられる定型表現も出題している。文法・語法の知識に加えて、文脈の把握が必要な設問も複数あったことに注意。

3 英作文

この大問では、語彙・文法の正確な知識と、それらを組み合わせて、条件に合った内容を英文で正しく表現する力を問うた。

A 整序英作文

スペリングミスを含め1語でも間違えているものは配点分減点とした。英作文の基本である、「主語を決定する力」を確認することを最大の目的とした。

(1) あえて文法書に出てくる例文のような文にしたので、全員に正解してもらいたかった1問。ここ

で間違えた人は、文法事項の見直しをする際に、「‘結果’を表す to 不定詞」とだけ覚えるのではなく、例文ごと覚えよう。

(2) take care という組み合わせは作れたが、先頭にくる saying が、直前の mother ではなく letter を修飾するという点が見抜きにくかったか。

(3) made me nervous から、主語が thought になることに気づけたかがポイント。mere の意味を知らなくて、これが主語だと勘違いした人もいるかもしれないが、日本語をきちんと読めば、「私」を主語にできない以上、「人前で話すと考えること(だけ)」を主語にする必要があると理解できたはず。

(4) ‘have no choice but to +動詞の原形’と‘付帯状況’を表す with の両方の知識を問う問題。

B 条件付き英作文

会話文の一部を埋める形式で、イラストの状況や空所前後の文のつながりを考えて書くことが条件。採点は、内容面と文法・語彙の面から減点法で行った。特に内容面は例年より厳しく採点したため、得点が残らない人が多かった。

(1) 空所直後の I am. Anything wrong? という返答に自然につながる内容で、かつ、イラストの状況(この会話の話題の中心となっている、エネルギーの無駄遣いに直結するもの)を答える問題。条件の多い設問のため、イラストからわかる状況であっても、「水を出しっぱなしにして無駄にしていること」に言及できていないものは(－8)とした。

(2) 内容面でのポイントは2つ。① エネルギー節約の方法として説得力があること、② 具体的な身近な取り組みであること。それぞれ抜けていたら(－5)とし、内容面で減点した後に、文法・語彙の誤りを各(－1)とした。「イラストの内容とは無関係の内容」という指示により、(1)とは異なる語彙・構文の表現力を試す出題とした。このため、歯磨きの際の水の利用に限らず、water に関わる内容を書いたものは一律減点しており、今回の模試全体を通して最も厳しい1問となった。英作文では、スペリングミスや文法面でのケアレスミスをしないよう、書き終えたら必ず見直そう。

C 和文英訳

(1), (2) とともに以下に示すパートに分け、減点法で採点を行った。細かい文法ミスが目立ったので、短時間で見直しまで終える練習をしておこう。

(1) ○そんな場所での清掃は危険だからやめるよ

う ……4点
○何度言っても ……2点
○まったく聞き入れません ……2点
(2) ○このような善意のおかげで ……3点
○私たちが気持ちよく暮らせている ……2点
○ことを決して忘れないようにしたいと思います ……3点

4 長文読解

タクシー運転手との口論を、幼い息子が収めてしまう場面をユーモラスに描いた物語の一部。細かい描写を含む状況や、登場人物の心の動きを理解できているかを問うた。

(1) 和訳問題。couldn't have cared less を「…できなかった」と誤訳した解答が散見された。父親の様子との対比・話の展開から、息子の様子をイメージして、知らない表現が出てきた時に意味を推測できるようにしてほしい。

5 長文読解

「情報化社会において、情報とは理解しやすいものに変換できて初めて役に立つ」という主張を述べた論説文。

(1) 和訳問題。以下に示すパートに分け、減点法で採点した。

○They の指す内容 ……3点
○transform what life throws at them, ……4点
○rather than just taking it as it comes ……3点

構文はさほど複雑ではなく、使われている語彙も難しいものはないが、抽象的な内容であるために適切な訳語の選択ができていないものが多かった。

(3) 含めるべきポイントはそれぞれ2つ。① the hand writers ... as the typists (4点) / scored twice as well (5点)、② took away their notes as soon as it (= the lecture) was over (5点) / so students couldn't study on their own (4点) ②は盛り込むべきポイントが他にもあるように思えるが、制限字数内で必要なポイントのみを抽出してまとめることができるかどうかで差がついた。

(4) 「書物に関して」という条件があることに注意したい。explain the concepts to someone の部分を的確に答えればよい。force yourself to put it down を「(書物を)置く」ではなく「書き留める」などと誤訳したものは(－1)とした。

第5回 高1英語

総 評

今回の試験では、リスニング、文法・語法、英作文、長文読解など多様な形式で出題し、基本的な文法・語法の知識から表現力・読解力・記述力がどの程度ついているかを試すことで、総合的な英語力を測っている。制限時間に対する演習量が多く、厳しい内容になってはいるが、プレステージを受験する難関大の志望者であれば、高校1年生のこの時期に、これだけの問題に対応できる実力をしっかりつけてほしい。また、模試なので得点差がはっきり出るよう、設問によっては部分点を排除し、かなり厳しく採点している。得点を見て落ち込んでしまうかもしれないが、これから何を重点的に復習すれば自分の英語の総合力が伸び、得点が上がるかを知ることのできる絶好のチャンスなので、大問ごとの出来や誤答の内容をきちんと確認して、今後の学習につなげよう。

問題別講評・採点基準

1 リスニング

英文の放送が始まる前に設問に目を通す時間を設けたので、注意して聞くべきキーワードやポイントをあらかじめ予測しておく取り組みやすい。ディクテーション以外の設問は、満点を取る生徒も見られた。聞き取りにくかった箇所については、解答解説の放送内容を音読して復習しておこう。

問題A

英問英答形式の設問であるため、聴き取る力以外に速読力も求められる。

(3) 間違えた生徒が比較的多く、誤答では圧倒的に a が多い。ユキとアヤの関係、高校でどのクラブに入っているかなどの情報を正しく理解しよう。

問題B

「野菜工場」に関する説明文。野菜工場についてニュースなどで見たことがある人にはある程度イメージがわいて解きやすかったかもしれない。

Part 1

(1) 誤答では d が多い。単独で見ると合っているような内容でも前後に合うものを選ぶ。

(4) 誤答では b が多い。野菜工場では、棚を何

段も積み上げることで収穫量を増やすことができるのだが、読み上げ文では racks of shelves あたりの聞き取りがやはり難しく感じられたのだろう。

Part 2

ディクテーション問題。スペリングミスや時制のミスは、単語の抜けや聞き間違い同様、配点分の減点とした。ディクテーションでは、語彙や文法の知識で減点が避けられる場合があるので、文法には自信がある人もここで間違えていた場合は見直しが必要である。また、既知の単語でも、音声ではうまく聞き取れないものについては音読の練習もすること。

(1) start の部分で set や stop とした誤答が多いが、前後の文脈から想像力を働かせて stop のような語は入らないと考えてほしい。また、正しい文にするには、主語 it も忘れてはいけない。

(2) not の短縮形は、最後の [t] がほとんど聞こえないため can との区別が難しい。profit は単語自体になじみがなかったようで、perfect や profect (存在しない語) などが見られた。

2 文法・語法

(3) 誤答では、a の needs to fix がほとんど。needs to be fixed であれば正解。need の目的語として不定詞か動名詞かで意味が能動・受動になるという違いがあるので注意しよう。

(4) 誤答では d の have you been marrying がほとんど。未来の時点についての会話であることに注意して選ぼう。

(8) では疑問文に mind が使われていることに注意が必要。a Yes, I will が圧倒的に多かった。

3 英作文

問題A 整序英作文

語彙・文法の正確な知識と、それらを組み合わせ、条件に合った内容を英文で正しく表現する力を問うた。

(1) (believes this study) worth spending ~としたものが目立った。ここだけを見れば 'believe + O + C' の型 (to be の省略) で成り立つが、選択肢の to と be はここで使わなければならない。

(2) It is about time ... (そろそろ...すべき時だ) の型にしてしまったものがあつた。この形自体は正しいが、about は後に続く the problem の前で使うものと判断すべきところ。(1) と同様、並べて

みてどこか文法・語法的に破綻していないかどうかを確認してみることが大切。

(3) We hope the time when peace can be brought will come to the world. としたものがあつた。the time を見てすぐに when を続けたくなったのかもしれないが、後半の come to the world (この世に生まれる) の主語が the time である点が不自然となる。

(4) 日本語の読み換えがポイントだったが、Whether you succeed が主語になる点はよく捉えられていたようだ。しかし後半の how の後を you are patient としたものが目立った。

問題B 条件付き英作文

英文の一部を埋める形式で、2つのイラストの状況(相違点)を把握して的確に描写できるかどうかのポイント。採点は、内容面と文法・語彙の面から減点法で行った。

(1) 内容面で盛り込むポイントは「①どのような場所へ行ったか(どんな場所での経験だったか)」と「②人物の表情から読み取れる気持ちや様子」の2つで、それぞれ3点ずつの配点とした。

(2) 内容面で盛り込むポイントは「①人物の表情から読み取れる気持ちや様子」と「②人物が①のようになった原因である場所の変化[ごみの散乱]」の2つで、それぞれ4点ずつの配点とした。

今回の条件英作文は2つのイラストを比べて述べるもので、両者とも取り上げるポイントが比較的わかりやすかったため概ねよく書けていた。自由英作文では賛否のいずれかの立場に立って書く問題もよく出題されるので、日頃から物事を複数の目線で捉える思考訓練をしておくとうい。

問題C 和文英訳

(1), (2) とともに以下に示すパートに分け、減点法で採点を行った。細かい文法ミスが目立ったので、短時間で見直しまで終える練習をしておこう。

(1) ○電車で2人分の席を占拠している人を見ると ……6点
○イライラします ……2点

(2) ○こういう人は～と言うのでしょうか ……3点
○立っている高齢者に気づけなかった ……5点
○スマートフォンに目をやっていたから ……4点

「2人分の」「占拠する」「高齢者」「目をやる」など、簡単そうに見えてなかなか英語にしにくいと思われる表現が含まれている。読み換えてみると意外

に平易な表現で表せることを再確認してほしい。

4 長文読解

具体例が多く盛り込まれた説明文で、文章の構成としては読みやすいものであったと思われるが、「ヘルス・ツーリズム」というテーマになじみがなく、読みにくいと感じた人も多かったかもしれない。

(2) ○However, since international travel is so cheap and quick ……5点
○it is now possible to shop around ……4点
○until you find a private health service ……3点
○that is affordable ……4点

since を「…以来; …してから」のように訳している誤りがいくらか見られた。また、shop around の意味合いをつかむのに苦戦した人もいたようだ。

(5) では、誤答として a や d を選んだ人が比較的多かったようだ。設問文の「述べられていないもの」という指示を見落とした人がいたのだろうか。

5 長文読解

いじめられっ子 Bradley が、Carla とのカウンセリングで自分が Monster と呼ばれていることをそれとなく相談していること、人を差別することを含めた Carla の世の中の見方が「宇宙人」を例にとって述べられていること、会話の最後の方で思わず Bradley が Carla への好意を漏らしてしまうことなどを読み取り、味わってほしい。小説の一部であるが、「登場人物の発言の意図」といった設問は控えた。

(2) 和訳問題。「その人たちには～が見えない」のみで that's only because の部分が抜けたものなどが見られた。

(3) 「その人も自分が怪物だと思うようになり」「怪物のようにふるまう」の2つのポイントで採点した。後半の「怪物のようにふるまう」の部分が抜けたものが散見された。

(4) 「なぜ醜いと感じるのか」の理由を説明する設問。「美しいと思うもの」や「本物の怪物」について含めるのは的外れ。また「～なので醜いと思うから」ではまとめ方がまずい。

(5) d の代わりに e を選んだ生徒も見られたが、d は Carla の言わば主張のような内容になっており、この物語の肝になるところである。

第1回 高1数学

総 評

今回は、必答問題を「数と式」「2次関数」「場合の数と確率」から出題し、選択問題として「図形と計量」「整数の性質」「図形と方程式」を出題した。

全体的に、基本的な処理はおおむねよくできていたが、応用になると手がつかなかった人が多いようだ。ほぼ正答であっても、遠回りの解法や、論証の書き方に不備がある答案も見られた。「解答」や「解説」を確認し、よく復習しておいてほしい。

問題別講評

1 小問集合

- (1) よくできていた。
- (2) 不足があったり、余分なものを含めたりしているものがあつた。絶対値の扱いをよく確認しておこう。
- (3) できているものも多くあつたが、**オ**では2桁の数を書いていた、分数を書いていたなど、問題の意味を取り違えているものが散見された。
- (4) **力**、**キ**ともに非常に出来が悪かつた。必要条件・十分条件と数直線上で表される領域との関係を理解していないものと思われる。
- (5) **コ**は、重複を除けていないと思われるものが多く見られ、出来はよくなかつた。

2 2次関数

2次関数のグラフの移動と、2つのグラフの位置関係に関する問題。

- (1) (2) 対称移動や平行移動について理解できている答案が多く、よくできていた。
- (3) $f(x) - g(x) = 0$ の判別式について考えている答案のほか、 $y = f(x) - g(x)$ のグラフの頂点について考えている答案もあつた。誤答としては、 $(f(x) \text{の最小値}) > (g(x) \text{の最大値})$ としているものがあつた。
- (4) $(f(x) \text{の最大値}) < (g(x) \text{の最小値})$ と考えている答案があつた。(3)とあわせて、「任意の」と「ある」の違いを確認しておこう。

3 場合の数と確率

条件つき確率の問題。

- (1) よくできていた。
- (2) できているものもあつたが、事象を重複して数えているものもあつた。
- (3) 書き上げて数えようとして失敗しているものがあつた。「解答」の方法を確認しておいてほしい。
- (4) 積 abc 、和 $a+b+c$ がともに3の倍数である確率を考えてしまっているものがあつた。

4 図形と計量

四面体を題材とした、空間図形の問題。

- (1) よくできていた。ABについては、 $\triangle OAB$ が正三角形になることから求めた答案もあつた。
- (2) よくできていた。
- (3) (i) $\cos \angle CAB > 0$ であることを確認していない答案があつた。
- (4) (ii) よくできていた。
- (5) (iii) Oから平面ABCに下ろした垂線と平面ABCの交点をHとすると、Hが $\triangle ABC$ の外心となる。これが見抜けたかどうかが分かれ目であつた。

5 整数の性質

方程式の整数解を求める問題。

- (1) よくできていた。
- (2) (i) (ii) できているものもあつたが、 x と y の大小関係をふまえずに解答してしまったものもあつた。
- (3) z の値で場合分けをすることには気づいているものの、解が存在しないことを述べられずに止まってしまうものがいくつか見られた。

6 図形と方程式

2変数関数の最大値・最小値を領域を用いて求める問題。

- (1) よくできていた。
- (2) 円の内部全体を答の領域としている答案や、第1象限の部分を答の領域としている答案があつた。「または」の意味を確認しておこう。
- (3) 解法は様々で、中心から接線までの距離と半径が等しくなることを利用している答案もあつた。
- (4) (2)で領域の図示を誤ったため、(4)も間違えている答案があつた。また、答が正しくても、点 $(0, -1)$ を通るときが最小となる理由まで記述できた答案は少なかった。

採点基準

以下に配点の目安を記しますので、参考にしてください。なお、下記は目安であり、立式や計算の過程において、場合に応じて部分的に得点を与えることや、減点することがあります。

また、「解答」以外の方法で解いた場合などは、以下の基準に当てはまらないこともあります。

1 (50 点)

いずれも答に

(1) **ア**: 3 点, **イ**: 5 点 (2) **ウ**: 6 点

(3) **エ**: 4 点, **オ**: 6 点

(4) **カ**: 5 点, **キ**: 5 点

(5) **ク**: 5 点, **ケ**: 5 点, **コ**: 6 点

2 (50 点)

(1) (6 点)

答に 6 点

(2) (14 点)

求める放物線の頂点 $(-2, -2+a)$ を得て
..... 6 点

答に 8 点

(3) (15 点)

$f(x) - g(x) = 0$ の判別式 D の条件を求めて
..... 10 点

答に 5 点

(4) (15 点)

$-\sqrt{2} \leq x \leq \sqrt{2}$ における $f(x)$ の最小値,
 $g(x)$ の最大値を求めて 6 点
答に 9 点

3 (50 点)

(1) (5 点)

答に 5 点

(2) (10 点)

abc が 3 の倍数とならない場合の数を得て 4 点
答に 6 点

(3) (15 点)

$a+b+c$ が 3 の倍数となる場合の数を得て 10 点
答に 5 点

(4) (20 点)

積 abc , 和 $a+b+c$ がともに 3 の倍数となる場合
の数を得て 5 点
答に 15 点

4 (50 点)

(1) (10 点)

AB を求めて 5 点

BC を求めて 5 点

(2) (5 点)

答に 5 点

(3) (i) (5 点)

答に 5 点

(3) (ii) (10 点)

CA についての方程式を作って 4 点

答に 6 点

(3) (iii) (20 点)

$\triangle ABC$ の面積を求めて 5 点

点 **H** が $\triangle ABC$ の外心とわかって 5 点

答に 10 点

5 (50 点)

(1) (5 点)

答に 5 点

(2) (i) (10 点)

$(3x-8)(y-1)=8$ を得て 2 点

答に 8 点

(2) (ii) (15 点)

$(x-4)(2y-3)=12$ を得て 3 点

答に 12 点

(3) (20 点)

$z=1$ のときの求める値の組を得て 5 点

$z=2$ のときの求める値の組を得て 5 点

$z=3$ で不適であることを示して 5 点

$z \geq 4$ で不適であることを示して 5 点

6 (50 点)

(1) (6 点)

答に 6 点

(2) (10 点)

円 **C** を図示して 2 点

題意の領域を図示して 8 点

(3) (14 点)

接線の y 切片 $2 \pm \sqrt{10}$ を得て 8 点

答に 6 点

(4) (20 点)

最大値を求めて 10 点

最小値を求めて 10 点

第2回 高1数学

総 評

今回は、必答問題を「数と式」「2 次関数」「場合の数と確率」から出題し、選択問題として「図形と計量」「整数の性質」「図形と方程式」を出題した。

全体的に、基本的な処理はおおむねよくできていたが、応用になると手がつかない人が多かった。ほぼ正答の答案の中にも、遠回りの解法をとっているものや、論証に不備があるものも見られた。「解答」や「解説」を確認し、よく復習しておいてほしい。

問題別講評

1 小問集合

- (1) よくできていた。
- (2) 答に過不足があるものがあつた。絶対値の扱いをよく確認しておこう。
- (3) **オ**は比較的良好にできていたが、**カ**はできていなかった。必要条件・十分条件については、集合の包含関係と関連付けてしっかりと理解しておこう。
- (4) **キ**はよくできていたが、**ク**は「解答」の場合分け (i) を考えられていないと思われるものが目立ち、出来はよくなかった。

2 2次関数

- 条件をみたす放物線の存在条件についての問題。
- (1) よくできていた。
 - (2) 全体的によくできていたが、題意を正しく捉えられていないと思われる答案もいくつか見られた。
 - (3) 題意を正しく捉えられていないと思われるものが多く、2 点(1, -2), (0, 3)を通る放物線の最小値-6を求め、そこから $m \leq -6$ を答としたものが非常に多かった。
 - (4) 条件をみたすグラフをいくつかかいて、直感的に答を求めたものが目立った。

3 場合の数と確率

- 経路を題材にした、確率の問題。
- (1) 正しく考えられたものが多かったが、(i) で点Oから点Aに到達する経路が2通りあることを考慮していないものが見られた。
 - (2) よくできていた。

(3) 6の目が2回出ると勘違いしたもの、書き上げようとして失敗したものなど、さまざまな誤答が見られた。

(4) 条件つき確率の定義については、ほとんどの人が理解できているようであったが、(3)までの誤りが影響して正解できなかったものが多かった。

4 図形と計量

- 回転移動を題材とした、平面図形の問題。
- (1) よくできていた。
 - (2) よくできていた。
 - (3) (i) 図をかかずに考えようとして行き詰まっているものが多かった。本問のポイントは、円の性質を用いて等しい角を発見することである。図をかいて、もう一度考えてみてほしい。
 - (3) (ii) 手をつけられたものは、余弦定理を用いる方針をとったものが多かった。「解答」の方法も確認しておこう。

5 整数の性質

- 方程式の整数解に関する問題。
- (1) よくできていた。
 - (2) よくできていたが、 $b=3$ のみを答としたものもいくつか見られた。
 - (3) 有理数 x を分数の形で表し、与式を変形するところまでは比較的良好にできていたが、そこから正しく値の組を求められたものは少なかった。
 - (4) $z=1$ のとき値の組が2組存在することは述べられているものの、 $z \geq 2$ のときについての考察が不十分なものがいくつか見られた。

6 図形と方程式

- 領域を用いて式のとり得る値の範囲を求める問題。
- (1) よくできていた。
 - (2) 方針は正しいものの、計算ミスをしたものが見られた。日頃から丁寧な計算を心がけよう。
 - (3) 直線 l に関して点 A と対称な点の座標を求めればよいことに気づけなかったものが多かった。図形の特徴を捉える訓練をしていこう。
 - (4) (3) で直線の方程式を誤ったため、領域を正しく図示できなかった答案が多かった。また、式の図形的意味を考えてとり得る値の範囲を求める方針は重要なので、「解答」をよく読んでおいてほしい。

採点基準

以下に配点の目安を記しますので、参考にしてください。なお、下記は目安であり、立式や計算の過程において、場合に応じて部分的に得点を与えることや、減点することがあります。

また、「解答」以外の方法で解いた場合などは、以下の基準に当てはまらないこともあります。

1 (50 点)

いずれも答に

- (1) **ア**: 5 点, **イ**: 7 点
- (2) **ウ**: 6 点, **エ**: 7 点
- (3) **オ**: 6 点, **カ**: 6 点
- (4) **キ**: 6 点, **ク**: 7 点

2 (50 点)

- (1) (10 点)
答に 10 点
- (2) (10 点)
放物線 $y = f(x)$ の頂点の x 座標 p を得て 6 点
答に 4 点
- (3) (15 点)
 $0 < p \leq 3$ を得て 7 点
答に 8 点
- (4) (15 点)
 $m = -(p-1)^2 - 2$ を図示して 10 点
答に 5 点

3 (50 点)

- (1) (i) (5 点)
答に 5 点
- (1) (ii) (8 点)
答に 8 点
- (2) (12 点)
答えを求める式を得て 8 点
答に 4 点
- (3) (13 点)
条件をみたす移動のしかたを捉えて 4 点
答に 9 点
- (4) (12 点)
4 回目, 6 回目とも点 **B** に到達する確率を
求めて 5 点
6 回目で点 **B** に到達する確率を求めて 3 点
答に 4 点

4 (50 点)

- (1) (5 点)
答に 5 点
- (2) (10 点)
 $\triangle ABC$ の外接円の半径を求めて 6 点
 $\triangle ABC$ の面積を求めて 4 点
- (3) (i) (15 点)
答えを求める式を得て 5 点
答に 10 点
- (3) (ii) (20 点)
四角形 $APQR$ の面積 T を $\triangle ABC$ の面積 S を
用いて表して 8 点
 $\triangle APQ$ の面積を S を用いて表して 9 点
答に 3 点

5 (50 点)

- (1) (10 点)
答に 10 点
- (2) (10 点)
答に 10 点
- (3) (15 点)
 $b = 1, 3$ を得て 3 点
 $x = \frac{c}{3}$ と表し、与式を変形して 6 点
答に 6 点
- (4) (15 点)
 $z = 1$ のとき、題意をみたす値の組を得て 4 点
 $z = 2$ のとき、題意をみたす値の組は存在しない
ことを示して 10 点
結論に 1 点

6 (50 点)

- (1) (10 点)
答に 10 点
- (2) (15 点)
接線の傾きを求めて 11 点
答に 4 点
- (3) (15 点)
直線 l に関して点 **A** と対称な点の
座標を得て 10 点
答に 5 点
- (4) (10 点)
領域 E を図示して 4 点
とり得る値の範囲を求めて 6 点

第3回 高1数学

総 評

今回は、必答問題を「数と式」「2 次関数」「場合の数と確率」から出題し、選択問題として「図形と計量」「整数の性質」「図形と方程式」を出題した。

全体的に、基本的な処理はおおむねよくできていたが、応用になると手がつかない人が多かった。ほぼ正答の答案の中にも、遠回りの解法をとっているものや、論証に不備があるものも見られた。「解答」や「解説」を確認し、よく復習しておいてほしい。

問題別講評

1 小問集合

(1) **ア**はよくできていたが、**イ**は符号ミスがやや見られた。

(2) **ウ**、**エ**はよくできていたが、**オ**は ${}_4C_2$ を考慮できていないものが見られた。反復試行の確率について確認しておこう。

(3) **カ**は比較的良好にできていたが、**キ**はできていなかった。ド・モルガンの定理についてしっかりと理解しておいてほしい。

(4) **ク**は約分未了や未整理のものが多く見られた。**ケ**は $a < 0$ を考慮できていないものがやや見られた。

2 2次関数

定数 a を含む 2 次関数についての問題。

(1) よくできていた。

(2) (i) 全体的によくできていたが、判別式を利用する解法では評価が曖昧なものが見られた。

(2) (ii) α 、 β を求めようとする答案がやや見られたが、その中の多くは評価が曖昧だった。

(3) 結論のみ書いてあるものや、論証が不十分なものが目立った。

3 場合の数と確率

数字が書かれている赤玉、青玉、白玉を題材にした確率の問題。

(1) よくできていた。

(2) 数字ではなく色に着目して場合分けした答案が多く見られた。

(3) (I)をみたす確率、…、(IV)をみたす確率をそれぞれ求めるなど題意を正しく理解していない答案が見られた。また、条件の考察がもれている答案が多く見られた。表などを活用して情報を整理するようにしてほしい。

4 図形と計量

四角錐を題材とした、平面図形および空間図形の問題。

(1) よくできていた。

(2) 図をかかずに考えようとして行き詰まっているものが多かった。また、余弦定理を用いて $\cos$ を求める過程の計算ミスがやや見られた。

(3) 本問のポイントは、 OA を外接円の半径と見なして正弦定理を適用することである。図をかいて、もう一度考えてみてほしい。

(4) 手をつけられたものであっても、(3)までの誤りが影響して正解できなかったものが多かった。

5 整数の性質

階乗を題材とした整数の問題。

(1) よくできていた。

(2) よくできていたが、3 で割り切れる約数、9 で割り切れる約数を考察するなど、手間がかかる方針の答案が見られた。解答を確認してほしい。

(3) 計算と答のみなど説明不足な答案が多かった。意図を伝える答案作成を目指してほしい。

(4) $2016! = 5^s \cdot 7^t \cdot N$ をみたす s 、 t は正しく求められているが、 m の値を決定する部分の説明が不足しているものが見られた。

6 図形と方程式

不等式で表される領域に関する問題。

(1) よくできていたが、対称性に着目できず、説明が冗長になっている答案が見られた。

(2) 領域 D を正しく捉えられていない答案が見られた。正しく図示できた答案はよくできていた。

(3) 題意を正しくつかみ、どの点で最大、最小となるかに気づけたものは多く見られたが、計算ミスが目立った。

(4) 領域 D の端点での移動を考慮できていない答案が見られた。また、円の中心 Q が存在する領域ではなく、円全体が通る領域の面積を求めている答案も見られた。

採点基準

以下に配点の目安を記しますので、参考にしてください。なお、下記は目安であり、立式や計算の過程において、場合に応じて部分的に得点を与えることや、減点することがあります。

また、「解答」以外の方法で解いた場合などは、以下の基準に当てはまらないこともあります。

1 (50点) いずれも答に

- (1) ア:5点, イ:6点
- (2) ウ:5点, エ:5点, オ:5点
- (3) カ:6点, キ:6点
- (4) ク:6点, ケ:6点

2 (50点)

- (1) (10点)
答に 10点
- (2) (i) (12点)
 $f\left(\frac{1}{a}\right) < 0$ を示して 6点
異なる2つの実数解をもつと示して 6点
- (2) (ii) (13点)
 $f(a) > 0, f(a^2) > 0$ を示して 各6点
答に 1点
- (3) (15点)
軸について考察して 10点
答に 5点

3 (50点)

- (1) (12点)
全体の場合の数に 2点
題意をみたす場合の数に 4点
答に 6点
- (2) (15点)
すべて異なる数字を取り出す確率に 12点
答に 3点
- (3) (23点)
条件をみたす取り出し方の考察に 9点
確率を求める式の立式に、答に 各7点

4 (50点)

- (1) (5点)
答に 5点
- (2) (12点)
 $\cos \angle BAD$ を求めて 6点

$\angle BAD$ を求めて 6点

(3) (15点)

正弦定理の利用と正しい値の代入に 10点

OA を求めて 5点

(4) (18点)

$\triangle OMG \cap \triangle OIH$ 3点

MG, OM, OH, OG の長さに 各3点

答に 3点

5 (50点)

- (1) (5点)
答に 5点
- (2) (12点)
立式に 8点
答に 4点
- (3) (15点)
 $\frac{10!}{2016}$ を素因数分解して 2点
 $n=2^x \cdot 3^y \cdot 5^z \cdot 7^w$ において, x, y, z, w がそれぞれ何通りかを求めて 11点
答に 2点
- (4) (18点)
 $2016! = 5^s \cdot 7^t \cdot N$ をみたす s, t に 13点
 $2016! = 175^{251} \cdot 7^{83} \cdot N$ 4点
結論に 1点

6 (50点)

- (1) (10点)
 $x \geq 0, y \geq 0$ における領域を捉えて 7点
対称移動して領域全体を捉えて 3点
- (2) (12点)
領域 D の形状を捉えて 4点
答に 8点
- (3) (13点)
 $(x-1)^2 + y^2 = k$ において 1点
最大値を求めて 4点
最小値を求めて 8点
- (4) (15点)
 D の内側の面積を求めて 5点
 D の外側の面積を求めて 8点
答に 2点

第4回 高1数学

総 評

今回は、必答問題を「数と式」「2次関数」「場合の数と確率」から出題し、選択問題として「図形と計量」「整数の性質」「図形と方程式」を出題した。

全体的に、基本問題はできていたが、応用問題になると手がつかない人が多かった。また、考え方はわかっているが計算ミスをしているもの、ほぼ正答の答案でも、遠回りの解法をとっているもの、論証に不備があるものも少なくなかった。正確な計算をすること、式の説明や考えた過程で必要な記述をしっかりと書くようにしよう。「解答」や「解説」を確認し、よく復習しておいてほしい。

問題別講評

1 小問集合

- (1) **ア**はできていたが、**イ**での誤りが目立った。小数部分の求め方を確認しておこう。
- (2) **エ**, **オ**は想定していたほどできていなかった。絶対値の扱い方についてしっかり復習しておこう。
- (3) **キ**は比較的にできていたが、**力**の出来は想定よりも低かった。確率を求めている答案もあった。問題文はしっかり読むようにしよう。
- (4) **ケ**, **コ**ともに出来はよくなかった。数直線などを用いて考えられるようにしたい。

2 2次関数

平行移動した放物線についての問題。

- (1) できていた。考え方は正しいと思われるが、右辺だけ書いたものや「 $C_1 =$ 」とした答も目立った。
- (2) (1) が正しいものは概ねできていた。計算間違いをした人は丁寧に計算することを心がけよう。
- (3) 最大値だけが正しいものや最大となるとき a の値だけが正しいものも見られた。絶対値の絡んだ問題では、グラフを正しくかいて考察することが好ましい。絶対値の中が正しいのに、答を間違えてしまった人はこの点を意識するようにしよう。

3 場合の数と確率

基本的な内容をいろいろ含んだ確率の問題。

- (1) できていた。

(2) 題意をみたすのがどのような事象のときは理解できているようだったが、余事象を利用せずに計算を進めたものや、1回ごとの試行が独立であることがわかっていないと思われるものも目立った。

(3) (2) 同様、問題の条件からどのような場合かはわかっているようであったが、それぞれの場合の確率を求めることまでできている答案は少なかった。

4 図形と計量

三角比の基本的な内容と四面体の体積の問題。

- (1) できていた。
- (2) 角の二等分線と辺の比の関係を用いて三角形の面積比を計算したものが多かった。しかし、計算ミスが目立った。丁寧な計算を心がけよう。
- (3) こちらも計算ミスが多かった。解法はいろいろあるので、自分の解法と異なる解法を研究してみるのもよいだろう。
- (4) 自分で設定した底面に対する高さを正しく把握できていないものが多かった。どこを底面とするかもポイントである。前の設問を利用するにはどうすればよいのかを考えよう。

5 整数の性質

不定方程式の問題。

- (1) できていたが、 a と b の大小関係を間違えたものも少なくなかった。
- (2) 偶奇に着目して考えられている答案は多かったが、ごまかした答案もいくつか見られた。証明問題では正しい内容を丁寧に書くように心がけよう。
- (3) 解答のように絞り込みを利用した答案は少なく、すべてのパターンを書き出そうとして、漏れや間違いのある答案が多かった。整数問題では絞り込みを利用することを意識したい。それによって計算ミスや漏れを減らすことができる。
- (4) (3) の形に変形することがポイントであったが、できている答案は少なかった。

6 図形と方程式

軌跡と領域に関する問題。

- (1) できていたが、計算ミスも目立った。
- (2) 交点を具体的に求め、そこから計算を進めているものも少なくなかった。この方法では途中で計算ミスをする可能性が高い。計算が煩雑になりそうなときは、ほかに方法がないかを考えてみるとよい。

また、東の考え方をういたもので、正しい使い方をしていないことによる誤答も目立った。

(3) 考え方は正しいものの、計算ミスによる間違いや定義域の見落としが目立った。

(4) 出来は悪かった。解答解説などを利用してもう一度解き直してほしい。

採点基準

以下に配点の目安を記しますので、参考にしてください。なお、下記は目安であり、立式や計算の過程において、場合に応じて部分的に得点を与えることや、減点することがあります。

また、「**解答**」以外の方法で解いた場合などは、以下の基準に当てはまらないこともあります。

1 (50 点) いずれも答に

- (1) **ア**: 5 点, **イ**: 5 点, **ウ**: 5 点
- (2) **エ**: 5 点, **オ**: 5 点
- (3) **カ**: 5 点, **キ**: 5 点, **ク**: 5 点
- (4) **ケ**: 5 点, **コ**: 5 点

2 (50 点)

- (1) (10 点)
 - 平方完成して 2 点
 - 平行移動して 4 点
 - 答に 4 点
- (2) (15 点)
 - 交点の x 座標を求める式に 5 点
 - 交点の x 座標を求めて 2 点
 - 答に 8 点
- (3) (25 点)
 - 最大値を求める絶対値のついた式に 15 点
 - グラフで考察して 4 点
 - 答に 6 点

3 (50 点)

- (1) (10 点)
 - 答に 10 点
- (2) (15 点)
 - 確率を求める式に 10 点
 - 答に 5 点
- (3) (25 点)
 - 同点になる 3 つの場合の確率に 17 点
 - 確率を求める式に 5 点
 - 答に 3 点

4 (50 点)

- (1) (10 点)
 - 答に 10 点
- (2) (10 点)
 - $\triangle ABC$ の面積を求めて 4 点
 - 答に 6 点
- (3) (10 点)
 - AD の長さを求める式に 6 点
 - 答に 4 点
- (4) (20 点)
 - 四面体 $ABCD$ の高さを求めて 12 点
 - 答に 8 点

5 (50 点)

- (1) (10 点)
 - 答に 10 点
- (2) (10 点)
 - 与式を因数分解して 2 点
 - (1) の結果を利用して、結論に 8 点
- (3) (10 点)
 - $p+q$ と $p-q$ の組を求めて 5 点
 - 答に 5 点
- (4) (20 点)
 - (3) を利用できる形にして 12 点
 - $2x+3$ と $2y-1$ の組を求めて 4 点
 - 答に 4 点

6 (50 点)

- (1) (10 点)
 - x の 2 次方程式をつくって 2 点
 - 判別式を求めて 2 点
 - 答に 6 点
- (2) (10 点)
 - 傾きを求める式に 5 点
 - 答に 5 点
- (3) (15 点)
 - 軌跡の方程式を求めて 9 点
 - 定義域を求めて 3 点
 - 答に 3 点
- (4) (15 点)
 - 領域の形状を捉えて 6 点
 - 境界や除外点、主要点が正しくて 9 点

第5回 高1数学

総 評

今回は、必答問題を「数と式」「2 次関数」「場合の数と確率」から出題し、選択問題を「図形と計量」「整数の性質」「図形と方程式」から出題した。

全体的に、基本問題はできていたが、応用問題になると手がつかない人が多かった。また、考え方はわかっているが計算ミスをしているもの、ほぼ正答の答案でも、遠回りの解法をとっているもの、論証に不備があるものも少なくなかった。正確な計算をし、式の説明や考えた過程で必要な記述をしっかりと書くようにしよう。「解答」や「解説」を確認し、よく復習しておいてほしい。

問題別講評

1 小問集合

(1) 因数分解の仕方はわかっていると思われるものでも、文字を書き忘れたり、符号を間違えたりしているものが見られた。

(2) **ウ**, **エ**はできていても、**オ**, **カ**はできていないものが見られた。有理数と無理数に分けて式を処理していく過程をしっかりと復習しておこう。

(3) 比較的手がつけられていたようである。点 A から点 B まで進むときに、点 P と点 Q のどちらか 1 つを必ず通ることがポイントになる問題だった。

(4) **コ**はできていた。**サ**, **シ**は両方ともできている人はあまりおらず、思った以上に難しかったようだ。

2 2 次関数

絶対値を含む 2 次関数を題材とした問題。

(1) 比較的良好にできていた。できていないものには、 $x=1$ を代入して $f(1)=2$ から 2 を答えとするなど、 $f(x)$ の形に慣れていないものも見られた。

(2) グラフを使わずに解いているものも見られたが、 $y=f(x)$ のグラフと直線の共有点を調べる方法をぜひ身につけておいてほしい。

(3) ところどころでミスが見られた。また、最大値を $|-a^2+4a-1|$ のように絶対値記号をつけて答えているものも見られたが、絶対値記号をはずすところまでしっかり注意してほしかった。

3 場合の数と確率

サイコロの出た目によって石を裏返したときの色の並びについての確率の問題。

(1) 比較的良好にできていた。

(2) 場合分けの仕方はさまざまであったが、動点 P が同じ頂点に 3 回止まる場合を忘れて $\frac{5}{12}$ としてしまっている答案が思っていたよりも多かった。また、場合分けの説明が不十分な答案も目立った。

(3) あまりできていなかった。場合分けに過不足があるものが散見され、しっかり考えて書けている答案は少なかった。

(4) 手をつけられているものは少なく、ほとんどできていなかった。

4 図形と計量

円に内接する図形を題材とした三角比の問題。

(1) 比較的良好にできていた。

(2) $\triangle BCD$ の外接円の半径 5 をすぐに求められるかどうかで差がついた。ものすごく遠回りをして半径 5 を求めている答案もあったが、三角形の 3 頂点から等距離にある点が外接円の中心になることに気づいてほしかった。

(3) 四角形を 2 つの三角形に分けて考えるといった方針はできているものの、最後まで解けている答案は少なかった。これくらいの処理量が無理なくこなせるようになると、十分に力がついていると言えるだろう。

5 整数の性質

正の約数の個数を題材とした問題。

(1) 比較的良好にできていたが、約数をすべて書き出して数え上げている答案も見られた。素因数分解から約数の個数を求める方法は知っておいてほしい。

(2) $9=3^2$ より、 p^2q^2 (p, q は素数) で表されることには気づいていながらも、 p^8 でも表されることに気づかず $2^8=256$ を忘れていたものが目立った。

(3) $N(N(m))$ が素数であることから $m=10, 100$ を求めるところまでは取り組んでいる答案はあるものの、 $m=10, 100$ のみであることをきちんと説明できている答案は少なかった。

6 図形と方程式

座標平面上の円を題材とした問題。

(1) 比較的良好にできていた。

(2) 2円が異なる2点で交わることを示すときに、 $OP < r_1 + r_2$ を確認するだけで $|r_1 - r_2| < OP$ を確認していないものが見られた。2円が異なる2点で交わるための条件はしっかり押さえておこう。

(3) 3点から等距離にある点の座標を求めるのでいろいろな解き方がある。「解答」や「解説」でいろいろな解き方を確認しておいてほしい。

採点基準

以下に配点の目安を記しますので、参考にしてください。なお、下記は目安であり、立式や計算の過程において、場合に応じて部分的に得点を与えることや、減点することがあります。

また、「解答」以外の方法で解いた場合などは、以下の基準に当てはまらないこともあります。

1 (50点) いずれも答に

(1) ア:4点, イ:6点

(2) ウ, エ:5点, オ, カ:5点

(3) キ:4点, ク:4点, ケ:7点

(4) コ:3点, サ:6点, シ:6点

2 (50点)

(1) (10点)

答に 10点

(2) (15点)

答に 15点

(3) (25点)

方程式 $f(x)=3$ の解の1つ $x=2+\sqrt{6}$ を求めて
.....9点

答に 16点

3 (50点)

(1) (5点)

答に 5点

(2) (10点)

確率を求める式に 6点

答に 4点

(3) (15点)

確率を求める式に 10点

答に 5点

(4) (20点)

確率を求める式に 12点

答に 8点

4 (50点)

(1) (8点)

答に 8点

(2) (17点)

答($\triangle BCD$ の外接円の半径)に 8点

$CE=6$ を求めて 4点

$\sin \angle CDE$ を求める式に 3点

答($\sin \angle CDE$)に 2点

(3) (25点)

$\triangle CDE$ の面積を求める式に 12点

$\triangle BCE$ の面積を求める式に 8点

答に 5点

5 (50点)

(1) (8点)

答に 8点

(2) (17点)

m を素因数分解した形を示して 3点

答に 14点

(3) (25点)

$N(m)$ がみたす条件を示して 10点

a, b の値の範囲を示して 5点

答に 10点

6 (50点)

(1) (8点)

答に 8点

(2) (17点)

円 C_1 と C_2 の中心間の距離を求めて 4点

円 C_1 と C_2 が異なる2点で交わることを
式で表し、結論づけて 5点

直線の式を求める過程に 4点

答(直線の式)に 4点

(3) (25点)

2点A, Bを通る円の式を立式して 7点

2点A, Bを通る円が点Cを通るときの
条件を求めて 5点

3点A, B, Cを通る円の方程式を求めて
..... 5点

答に 8点

第一回 高一国語

総評

評論、小説、古文、漢文について、苦手な分野を作らず、バランスよく国語の力を伸ばしていきたい。高一の現時点では、古文、漢文の学習状況によって、点数の差がつきやすく、今回の模試でもその傾向が見られた。古典で思うように得点できなかった人は、まず、単語の意味や文法事項、句形の知識などの基礎をしっかりと身につけよう。基礎固めがこの先の伸びにつながるので、今回間違えたところはきちんと復習しておくことが大切だ。

問題別講評・採点基準

一 評論

(一) 熟語は、一字でも誤りを含んでいたら不可。
(c) 「過敏」の「敏」を「悔」や「便」とする誤りが目立った。(d) 「潤滑油」の「潤」を「順」「循」とするもの、「滑」を「活」とする誤りが多い。形の似た字や読み方の同じ字に注意しよう。

(二) Xはまずまずの出来。Yは苦労した人が多かったようだ。空欄のあとの逆接の「が」に着目し、《現実ではないもの》といった内容の選択肢を選びたい。

(三) 「採点基準」

「子どもがa両親からの b精神的な拘束に距離を置くことで、自我のc自由とそれに基づく d自律

性を獲得する」と説明して

—— 11点

* a 1点、b 4点、c 3点、d 3点。

a b cの要素を押さえ、dが欠けている答案が目立った。傍線(1)の直後の二文をもとにすると、ほぼ制限字数に達し、a b cの要素を含んだ答案となる。そのあとに続くd「自律性」まで答えに含めるには、表現の調整が必要。無駄な表現を省き、全ての要素を端的に盛り込んでいるよい答案も見られた。

(四) よく読解できている答案が多かった。

(五) 「採点基準」

「a成長すると子どもその意味が理解できなくなる上、b相互の信用に依存し、人格と行為の自律性を尊重する近代社会では、cうそは正直というモラルへの背信とみなされる」と説明して—— 15点
* a 3点、b 6点、c 6点。

最終段落の近代社会の特徴からまとめた答案が多く、よいところに着目できている。ここを使えば、b cの要素を押さえられるが、もう少し広い範囲に目を向けるとさらによい。傍線(3)の少しあとに「…要因のみではない」とあるため、この前に書かれていることも要因として挙げられると判断できる。

(六) 本文全体が対象となる内容合致問題で、選択肢が三行と長く、本文の該当箇所と比較して丁寧に検討する必要がある。誤答は比較的(7)が目立った。解説をよく読んで復習しておこう。

二 小説

(一) 「採点基準」

「a貧しい環境に生育した者として、b貧者のために尽力する」と説明して—— 8点

* a 4点、b 4点。

傍線(1)のあとの文から「貧乏百姓の倅」という言葉を用いてaの要素を押さえた答案が多かった。一方、bの要素が欠落している答案が目立つ。7行目に「貧乏人の味方になって、貧乏人がもつとらしく生きて行く社会が生れるために、自分の小さい力を使いたい」とあるので、この部分からbの要素を押さえたい。

「自分の家柄や社会的地位を自覚している」などの答案もあったが、具体的に「貧しい」という要素を明記することが大切。また、「渡米を考える余裕がない」「自由を求める身分ではない」などの否定的な理由を記している答案も散見されたが、鬼怒田がもつと積極的に貧しい人のために尽力しようとしていることを読み取ろう。

(二)・(三)・(四) いずれも全体的によく読解できていた。

(五) 「採点基準」

「a渡米に関して自分が満足できるような確固たる目的がなかったが、b鬼怒田との会話により、c自由な生き方を目指そうという d考えが桑一郎の中で(d)まとまりかけていた」と説明して—— 14点
* a 6点、b 2点、c 3点、d 3点。

概ねポイントを押さえた答案が多いが、抜けが目

立つのはc「自由」という要素。「渡米の目的が明確になってきた」などとするのはよいが、ではその目的は何なのかという点まで検討して、具体的に「自由」というキーワードを答案に盛り込もう。

(六) (ウ)を選ぶ誤答が多かった。もつともらしい選択肢に惑わされないようにしよう。本文のどこを根拠とできるか、選択肢と本文を照らし合わせて考えることが大切。

古文

(一) 全体的によい出来だったが、(c)はやや誤りが目立った。「尽く」の連用形にサ変動詞「す」が付いたものである。

(二) (x)は「(顔を)覆う」などとした誤答が多いが、「目十守る」という成り立ちであり、(じつと見つめる)意。(y)「やさし」を現代語の「易しい」と解して「簡単に」などとする誤答が多い。ここの「やさし」は漢字で書くと「優し」で「優美だ」という意味。(z)は概ねよくできていた。

(三) 採点基準

「今朝は a 雪もひどく降り積もり嵐もたいそう激しいので、b 明日宮中に参上なさるのがよいという c 自分の娘の言葉は道理だ」と説明して——10点
* a 3点、b 3点、c 4点。

文脈をきちんと理解できている人が多かった。

(四) 和歌の内容をよく把握できていた。

(五) 採点基準

「a この世にありはて b ても c なにかはせん」を
「a この世にずっと生きてい b ても c 何になるだろうか、いや何にもならない」と訳して——8点
* a 3点、b 1点、c 4点。

「なにかはせん」は反語で「何になろうか、いや、何にもならない」の意味だが、ここを「何かをしよう」という意志とする誤答が散見された。文意が全く反対になり、前後の内容に合わない。

(六) 採点基準

「a 伊周が b 宮中に c 戻る」と説明して——6点
* a 2点、b 2点、c 2点。

概ねよい出来だが、「伊周が死ぬこと」という誤答が散見された。「雲居」の意味がわからず、雲に帰る↓死ぬと想像したのだろうか。(宮中)の意を覚えておこう。「伊周公を召し返さるべきよし君より仰せ下され、つひに都へ上り給ふ」とあることに着目すれば、伊周の死は描かれていないと判断できる。

(七) 誤答は各選択肢に分散した。解説をよく読んで復習しておこう。

(四) 漢文

(一) (a)・(c)はよい出来。(b)は難度の高い問題なので、この機会に読み方を覚えておこう。

(二)・(三) 概ねよくできていた。

(四) 採点基準

「a 従ふ(こと) b 無かる c べけんや(と)」と書き下して——4点
* a 1点、b 1点、c 2点。

少し前に「可無帰乎」とあることに着目し、読む順番は把握できている答案が多いが、「べけんや」の読み方が難しく、読めた人は少数だった。

採点基準

「a 従属し b ないでいられようか、いや、従属する(と)」と訳して——4点
* a 1点、b 3点。

前後の内容から、意味を正しくつかめている答案が多かった。

(五) 採点基準

「a 戦いに勝つよりも信義を守ることを貫いた b 文公は、c 王として信頼するに足ると考えた」と説明して——8点
* a 4点、b 1点、c 3点。

しっかり解答要素を押さえている答案がある一方、無解答や見当違いの答案などがあり、差がついた問題だ。

(六) 本文にある漢字を使用して紛らわしく作られた選択肢であり、惑わされた人が多かったようだ。

第二回 高一国語

総評

高一の現時点では、古文、漢文の学習状況によって、点数の差がつきやすく、今回の模試でもその傾向が見られた。

問題別講評・採点基準

一 評論

(一) 熟語は、一字でも誤りを含んでいたら不可。

(e) 「精緻」の誤りが目立った。

(二) (a)とする誤答が多かった。述べられていることと自体は間違っていないが、ここは「反証可能性」が話題となっている箇所である。

(三) 採点基準

「a 並立しない二つの仮説を検証する科学は、b 意見の相違が調整される日常の場とは異なり、c 両者の中間の仮説を認めない」と説明して —— 10点
* a 4点、b 4点、c 2点。

b cの要素は押さえているが、aを欠く答案が目立った。傍線部のように言える前提として、科学自体に内在する要素を説明する必要がある。

(四) (i)とする誤答が多かった。この選択肢はラカトシユ・イムレの批判を踏まえたものだが、傍線部

はさらにその先、クーンのパラダイム論を受けたものである。

(五) 採点基準

「a 仮説を論理的で再現可能な実験によって証明することと反証可能性を存立条件としつつ、b その時代のパラダイムを身につけた c 研究者が、自らの目的を達成するためのプロセスとして行っている」と説明して —— 14点
* a 8点、b 2点、c 4点。

傍線部の前の段落にある「結果としての科学ではなく、結果を得るためのプロセスとしての科学」という記述に依拠し、そこに肉付けして解答欄を埋めた答案が多かった。確かに落としてはならないポイントではあるのだが、そこだけに終始してしまうと、「現代における『科学』の定義と問題文全体の論旨も踏まえて」という設問の指示に当たっていないことになってしまう。筆者は「このような考え方は、従来、科学史、科学哲学で議論の対象となっていた『科学』の定義とは大いに異なるものでしょう」と述べてはいるが、しかし実際に研究を行う際は、筆者自身も現代科学のパラダイム内でそのルールに従っていることに注意したい。

(六) 誤答としては(a)が目立った。

(一) 小説

(一) 採点基準

「a 自分も出ることを許されなかった重い奥伝に新

関が父と一緒に出ると聞き、b 新関が自分よりも父に近い立場にいると感じた」と説明して —— 12点
* a 7点、b 5点。

aの要素のみを書いたものが多かった。傍線部直前の「父と自分の距離、そして新関と父の距離を感じた」という記述から、父と新関、父と自分の距離について邦枝がどう感じたのかも説明に含めたい。

(二) これは非常によくできていた。

(三) (a)とする誤答が目立った。

(四) 採点基準

「a 微妙な音程のずれを感じ取れるのは娘だけだ」と思い至り、b 琴柱を直したのは邦枝に違いないとc 気づいた」と説明して —— 10点
* a 5点、b 4点、c 1点。

設問文が「寿久が『はつと息を呑んだ』のはなぜか」となっていることに注意したい。これはすなわち、解答として、寿久の頭の中にあることの説明を求めている、ということである。にもかかわらず、邦枝の頭の中にあることまで盛り込もうとすると、結果として字数が足りなくなり、必要な要素を落としてしまう。設問が求めていることのみをまとめられていたか、振り返っておこう。

(五) これはよくできていた。

(六) (i)を選ぶ誤答が多かった。もっともらしい選

択肢に惑わされないようにしよう。

三 古文

(一) まずは動詞を正しく抜き出せないと、活用の種類も活用形も正しく答えられない。間違えた人は、この、動詞を正しく抜き出すという段階でつまづいていたようである。

(二) いずれも基本かつ重要古語である。動詞なのに名詞の形で答えたり、逆に名詞なのに動詞の形で答えたりといった、細かなミスが目立った。そんなところで減点されるのはもったいない。注意しよう。

(三) 「採点基準」

「a 隠瑜と死別した娘の悲しみが、b 郭奕との結婚により c 少しでもいやされることを望む」と説明して 10 点

* a 4 点、b 3 点、c 3 点。

妻を亡くした郭奕をかわいそうに思って、という方向で解釈しているものがあつた。郭奕への同情もまったくないことはないだろうが、ここはやはり、娘にとってよかれと思ってやったこと、と解釈するのが妥当である。

(四) 間違えた人は、抜き出した部分を現代語訳してみ、解答として妥当かどうか確認しておいてほしい。たとえば、最後の四字を「ことわりなければ」の「なければ」ではなく「ことわり」としてしまふと、傍線部の説明にはならなくなってしまう。

(五) (i) 「採点基準」

「a 親の言いわけどおり b 郭奕と結婚し c たとしても」と説明して 6 点

* a 2 点、b 3 点、c 1 点。

c の「ぬとも」にまで配慮して説明してほしい。

(ii) 「採点基準」

「a 古き契りを b (私は) c いかで忘れん」を

「a 前の夫との夫婦の契りを b 私は c どうして忘れるだろうか、いや、忘れないだろう」と訳して 8 点

* a 4 点、b 1 点、c 3 点。

「いかで忘れん」は反語だが、ここを「どうにかして忘れよう」と解釈する誤答が散見された。

* a 4 点、b 1 点、c 3 点。

「いかで忘れん」は反語だが、ここを「どうにかして忘れよう」と解釈する誤答が散見された。

「いかで忘れん」は反語だが、ここを「どうにかして忘れよう」と解釈する誤答が散見された。

(六) これは比較的よくできていた。

(六) これは比較的よくできていた。

四 漢文

(一) いずれも基本的なものである。間違えた人は、この機会に覚えておくように。

(二) ここで間違えた人は、本文全体の大きな流れをとらえられていなかったことになる。人物関係を押さえることは、読解の基本中の基本である。

(三) (i) 「採点基準」

「a 遊びて b 時を量らずして c 君の得る所と為る(と)」と書き下して 4 点

* a 1 点、b 1 点、c 2 点。

(ii) 「採点基準」

「a 遊んでいて時の経つのを忘れたので b あなたに捕らえられてしまった」と訳して 4 点

* a 2 点、b 2 点。

書き下し・口語訳とも正しくできた人は少ない。

(四)・(五)・(七) これらも、やや残念な結果であつた。

(六) (i) 「採点基準」

「a 禍 b 将に c 汝に d 及ばんとす(と)」と書き下して 4 点

* a 1 点、b 1 点、c 1 点、d 1 点。

(ii) 「採点基準」

「a 桑樹が b 薪にされること」と説明して 6 点

* a 2 点、b 4 点。

白答が相当数あつたのは残念である。

第三回 高一国語

総評

評論、小説、古文、漢文について、苦手な分野を作らず、バランスよく国語の力を伸ばしていきたい。高一の現時点では、古文、漢文の学習状況によって、点数の差がつきやすく、今回の模試でもその傾向が見られた。古典で思うように得点できなかった人は、まず、単語の意味や文法事項、句形の知識などの基礎をしっかりと身につけよう。基礎固めがこの先の伸びにつながるので、今回間違えたところはきちんと復習しておくことが大切だ。

問題別講評・採点基準

一 評論

- (一) 熟語は、一字でも誤りを含んでいたら不可。
(e) 「完璧」の「壁」を「壁」とする誤りが非常に多かった。

- (二) これは易しかったようだ。よく出来ている。

(三) 「採点基準」

「a 商品の選択の基準に対するこだわりがなく、ある程度の商品でも満足できる」と説明して

* a 6点、b 4点。 — 10点

b 部で、「購入した商品に満足できる」とことにとど

まり、その商品が「ある程度のもの」であつてもよいことまで説明できていない答案が多かった。「最高の商品」を求めるマキシマイザーに対比されているのだから、この点は明確にしたい。

- (四) (エ)という誤答が多かった。ここで述べられているのは専ら商品選択に関わることであり、「独自の人生観」というのは、やや言い過ぎである。

(五) 「採点基準」

「a 人々が、b 自分が購入したものよりも良い商品があつたという後悔に耐えつつも、c 企業の提供する画一的な文化に満足せず、d より良い生活を求めて自由に商品を探そうとする社会」と説明して

* a 1点、b 4点、c 4点、d 5点。 — 14点

「人々がサティスファイサーではなくマキシマイザーとして行動する社会」では説明になっていないし、字数も大幅に足りない。そこでそれぞれに説明を加えようとするのだが、「サティスファイサー」に関する説明はここでは必要ないことに気づいてほしい。これを盛り込んでしまったために、必要な要素を落としてしまった答案が多かった。

- (六) 問題文全体が対象となる内容合致問題で、選択肢が三行と長く、問題文の該当箇所と比較して丁寧に検討する必要がある。誤答としては(A)が目立った。解説をよく読んで復習しておこう。

二 小説

(一) 「採点基準」

「a 着物に着がえた心地よさから、思わず普段と同じようにふるまってしまったことで、自分がb 母の死に悲しみを感じていないことを c 兄達に気づかれたのではないかと恐れたから」と説明して

* a 5点、b 3点、c 4点。 — 12点

大枠は捉えられているものが多かった。中には、傍線部直後の一文「……不覚にも習癖を動作させたのだ。」までの内容で答案を作っているものもあったが、さらに次の一文も押さえる必要がある。

- (二) よく出来ている。

(三) 「採点基準」

「a あえて誤解を招く言い方をすることで、自分がb 母の死に衝撃を受け、食欲をなくしている」と c 兄に思わせること」と説明して

* a 2点、b 6点、c 2点。 — 10点

- (四) よく出来ている。

(五) (イ)(ウ)という誤答が目立った。「母に対する感謝の念」「母が様々なものから守ってくれていた」というのは、母を亡くしたときに湧いてきそうな思いではある。しかしそれは、一般的に、ということではある。

あつて、ここではあくまで問題文に即して考えなければならぬ。

(六) (イ)という誤答が散見された。『僕』の姿に「批判的」な感情を持った読者はいるだろうが、作者が「批判的に」描いているとは言えない。

古文

(一) まずは動詞を正しく抜き出したかどうか、振り返っておいてほしい。

(二) (z) 「あなかしこ」が難しかったようである。

(三) ここで間違えた人は、問題文のあらすじを捉えられていなかったということになる。

〔採点基準〕

「生活に困った者などと名乗るので、b 気の毒であるから c 少しでも差上げた方がいいけれど」と訳して — 8 点

* a 3 点、b 2 点、c 3 点。

「名乗れば」の「ば」、「いとほしさに」の「に」を正しく訳出できていないものが多い。

(五) 〔採点基準〕

「伊佐の入道ほどの者が、b 海賊に遭い縛られて、荷物を奪われたと c 言われるのは不名誉だから」と説明して — 8 点

* a 2 点、b 3 点、c 3 点。

傍線部自体の解釈を誤ったと思われる誤答が多かった。傍線部の意味を正しく捉えられていたか、振り返っておいてほしい。

(六) (i) 〔採点基準〕

「自分を伊佐の入道だと名乗っている点」と説明して — 5 点

* 「伊佐の入道になりすましている」「自分が伊佐の入道である」などでも可。

* 「実は伊佐の入道ではない」「実際はただの講師である」など、事実のみを説明したものは -3 点。

(ii) 〔採点基準〕

「兵士が多くいるように振る舞っている点」と説明して — 5 点

* 「船に大勢いるように話している」など、〈兵士〉という点が明確でないものは -1 点。

* 「船には兵がいること」など、〈見せかけている〉意を欠くものは -2 点。

(i) で「多くの戦を生き抜いた」とするものがあつたが、それだけでは海賊は逃げ出さないだろう。

(七) 誤答は割れている。正しく読めた人が少なかったことの表れだろう。

漢文

(一) いずれも基本的なものである。間違えた人はこの機会に覚えておこう。

(二) (y) の出来がよくなかった。

(三) (i) 〔採点基準〕

「a 奈何ぞ b 廷に(て) c 廷尉を辱むる(や)(と)」と書き下して — 4 点

* a 1 点、b 1 点、c 2 点。

(ii) 〔採点基準〕

「a どうして b 宮廷の中で c 廷尉に恥をかかせた a のか(と)」と訳して — 4 点

* a 2 点、b 1 点、c 1 点。

出来ていない。せめて「奈何ぞ」ぐらいは正しく押さえないところである。

(四) 〔採点基準〕

「a 自分の年齢と身分を考えると、b 生きているうちに c 張廷尉のためになることはできそうもないということ」と説明して — 6 点

* a 2 点、b 1 点、c 3 点。これも出来ていない。

(五) (i) 「釈之……結之」という誤答が多い。釈之は、王生の臣であるわけではない。

(ii) 〔採点基準〕

「a 裁判の議決にあたるときは、b いつも c 公平な判決を下した」と訳して — 6 点

* a 2 点、b 1 点、c 3 点。

(六) 選択肢に対語が並んでいたからか、ABに入る語も対語でなければならないと思ってしまった人が多かったようである。

第四回 高一国語

総評

評論、小説、古文、漢文について、苦手な分野を作らず、バランスよく国語の力を伸ばしていきたい。高一の現時点では、古文・漢文の学習状況によって、点数の差がつきやすく、今回の模試でもその傾向が見られた。古典で思うように得点できなかった人は、まず、単語の意味や文法事項、句形の知識などの基礎をしつかりと身につけよう。基礎固めがこの先の伸びにつながるので、今回間違えたところはきちんと復習しておくことが大切だ。

問題別講評・採点基準

一 評論

- (一) 熟語は、一字でも誤りを含んでいたら不可。(b)「犠牲」の「牲」を誤るものが目立った。

(二) 「採点基準」

「a 唐突に悲惨な死を遂げた人が b 死者として存在するかのように考えることで、c その人との関係の喪失に耐える(行為)」と説明して

* a 3点、b 3点、c 4点。 — 10点

傍線部直後の具体例から、ここでの「亡くなった人」が自然な亡くなり方をしたわけではないことを押さえない。だからこそ、遺族はよりこのような行

為へと導かれるのである。「死者として存在するかのように考える」にとどまる答案も多かったが、そのような行為の意味にまで踏み込む必要がある。

- (三) これはよく出来ていた。

- (四) (ウ)では「湯灌に代わるもの」の意が表せない。また(オ)の「旧弊」には悪いものというニュアンスがあるが、筆者が「湯灌」を悪いものととらえているとは読み取れない。

(五) 「採点基準」

「a 死体は b 死んだ状態の単なる物体という意味だが、c 遺体は d 生前の人格が想定されており、e その人が特別の関係にあった人びとに対し、処理を期待して残した身体という意味である。」と説明して — 16点

* a 1点、b 5点、c 1点、d 4点、e 5点。
全体的外れという答案は少なかった。いかに重複しないように要素をピックアップして答案にまとめあげるか、というところで差がついたようだ。

- (六) 問題文のテーマが日本人の「死の文化」なので、実質的に問題文全体を対象とする内容合致問題である。選択肢が三行と長く、問題文の該当箇所と比較して丁寧に検討する必要がある。誤答としては(オ)が目立った。解説をよく読んで復習しておく。

二 小説

- (一) (イ)という誤答が目立った。方向として間違っているわけではないが、相対的に正答よりは劣る、という選択肢である。こういった、明らかな誤りはない複数の選択肢の中から最適なものを選ぶ、という場合もあるので注意しよう。

- (二) 誤答では(ウ)が目立つ。

- (三) これはよく出来ていた。

(四) 「採点基準」

「a 長く生きられなくても、b 生きた証として誰かの心の中にそっと存在を残すことができれば満足だ」ということ。」と説明して — 12点

* a 4点、b 8点。

生きた証を残したい、というところは、多くの人が押さえられていた。

(五) 「採点基準」

「a 両親の子として生まれた奇跡に感謝しており、b 両親を大切に思っているということ」を c 健一に伝えたかったから。」と説明して — 12点

* a 6点、b 4点、c 2点。

解答の大枠は「何かを健一に伝えたかったから」となるが、その伝えたかった「何か」だけに答案内容を絞ってしまい、それを健一に伝えたかったとまでは言っていないものが多かった。

- (六) (エ)という誤答が散見されたが、「絶望」の前提

となるべき「生きたい」という意欲が英樹の言動には見られないことに注意しよう。

三 古文

(一) まずは動詞を正しく抜き出せたかどうか、振り返っておいてほしい。

(二) (y) 「げに」の誤りが目立った。語義を知らず文脈だけから選んだ結果が(エ)「先だって」だろう。

(三) 採点基準

「a 私が以前に窮楽に頼んでいた書を b あなたが持つて来なさるならば、c あなたが窮楽の子どもである証拠でしょう」と訳して

* a 3点、b 2点、c 3点。

—— 8点

「これ」とは何か、「携へ」るのは誰か、何の「証」となるのかを説明したうえで口語訳する。説明に意識が行ってしまったせい、か、「給ふ」や「べし」の訳がおろそかになってしまったものが目立つ。

(四) 傍線部の「心を隔て」という表現に引きずられてしまったせい、か、(ウ)という誤答が目立った。

(五) 採点基準

「a 下血で汚れた b 父の寢床を c きれいにするのを d 汚らしい(と思うこと)」と説明して

* a 2点、b 2点、c 1点、d 1点。 —— 6点

「汝もまた同じとはいへど」まで反映させようと

すると、字数が足りなくなる。ポイントを絞り込んで解答を作成しよう。

(六) A 採点基準

「a 父への b 世話や病気の看病の様子」と説明して

* a 1点、b 4点。

B 採点基準

「a 久兵衛の父への b 親孝行ぶり全体」と説明して

* a 2点、b 3点。

「これら」に第一段落の内容も含まれると解釈してしまったものが多かった。

(七) 誤答は割れている。正しく読めた人が少なかったことの表れだろう。

四 漢文

(一) 思ったより出来が悪かった。いずれもよく問われるものである。間違えた人は、この機会に覚えておこう。

(二) 採点基準

「a 公乗不仁をして b 鰥政たら(を為さ) c しむ」と書き下して

* a 2点、b 3点、c 1点。

—— 6点

「為」は動詞・助動詞いずれの読みも可とした。

(三) 採点基準

「a 文侯は b 飲んだけれども c 盃一杯全部は d 飲み干さなかった」と訳して

* a 1点、b 2点、c 2点、d 1点

—— 6点

「文侯は飲んで飲み干さなかった」という答案があった。「尽」以外のわかるところを訳そう、ということだろうが、「飲んで飲み干さなかった」は日本語としてつながりが悪いことに気づきたい。

(四) (i) という誤答が目立った。逆に言えばどうなるか、ということ、傍線部に続く部分もあわせて考える。

(ii) 採点基準

「a 自分でルールを決め、b 家臣たちが問題なく受けている罰杯は c 文侯も受けるべきだ」と説明して

* a 2点、b 5点、c 3点。

—— 10点

これは難しかったようで、方向違いの答案が多々見られた。

(五) 誤答では(ウ)が目立ったが、君主が臣下に対して「承」ることはない。

第五回 高一国語

総評

評論、小説、古文、漢文について、苦手な分野を作らず、バランスよく国語の力を伸ばしていきたい。高一の現時点では、古文、漢文の学習状況によって、点数の差がつきやすく、今回の模試でもその傾向が見られた。古典で思うように得点できなかった人は、まず、単語の意味や文法事項、句形の知識などの基礎をしつかりと身につけよう。基礎固めがこの先の伸びにつながるので、今回間違えたところはきちんと復習しておくことが大切だ。

問題別講評・採点基準

一 評論

- (一) 熟語は、一字でも誤りを含んでいたら不可。(b)「援用」の「援」、(d)「還元」の「還」、(e)「疾患」の「疾」に誤りが目立った。

(二) 「採点基準」

「a 童謡・唱歌の歌詞の舞台を状況証拠から具象化する試みは、b ほぼ推論ではないから。」と説明して 10 点

* a 7 点、b 3 点。

まずは、傍線部の「その説明」の指示内容を〈童謡（唱歌）の舞台を状況証拠から具象化する試み〉とおさえ、具象化するものを〈童謡（唱歌）の舞台

（風景や人・場所）などとわかりやすく説明できていたかどうか。次に「その説明」が「脆弱」となる理由を述べればよいが、「童謡や唱歌は抽象的だから」という趣旨の説明は、それにはあたらない。

- (三) 誤答では (イ) が目立っていた。選択肢前半が問題文の論旨とは異なることを確認しておこう。

- (四) 誤答は分散していた。選択肢それぞれの意味が理解できていたか、振り返っておこう。

(五) 「採点基準」

「a 心のふるさと」とは、b 無意識のうちに自分は日本人であると自明視することで童謡・唱歌に覚える郷愁ではあるが、c その感覚は個人の体験に準拠しない集合的なものであり、虚構にすぎないから」と説明して 16 点

* a 1 点、b 7 点、c 8 点。

「心のふるさと」とは〈童謡・唱歌から感じ取るノスタルジア〉で〈無意識に日本人と自明視すること〉で「感じ取っているもの。それが〈個人的な体験ではなく集合的なもの〉で〈虚構であること〉をとらえて説明する。前者あるいは後者の説明に偏ってしまっているのが目立った。

- (六) 問題文全体を対象とする内容致問題である。選択肢が三行と長く、問題文の該当箇所と比較して丁寧に検討する必要があった。

二 小説

- (一) 全体的によくできていた。間違えてしまった場合は、語句の意味をイメージや先入観で曖昧に覚えていないか、確認してほしい。

- (二) 概ねよくできていた。

(三) 「採点基準」

「a ありのままの自分ではなく舞妓の姿になること」によって左京くんと仲良くなるうとした「私」は、b 卑怯なのではないかということ。と説明して 12 点

* a 9 点、b 3 点。

「魔法」「シンデレラ」「王子様」の比喩がそれぞれ何を意味するのか、答案内で明示できているかどうかで差がついた。

- (四) 誤答では (ウ) が目立っていた。存在感が薄いことに悩んでいた「私」にとつて、「ずっと覚えて」という金子さんの言葉が、どれほど大きな意味を持つのか、読み取りたい。

(五) 「採点基準」

「a 外見を取り繕うことばかりに囚われるのではなく、b 元々内在している自分の本質を大切にしつつ、c 少しずつありのままの姿を肯定していこうと考えている。」と説明して 12 点

* a 4 点、b 5 点、c 3 点。

傍線部の直前に注目し、〈自分の本質を大切にし

つつ、ありのままの姿を肯定していきたい」という要素はよく押さえられていた。「京都人の精神」の部分にも注目して、〈外見を取り繕うことばかりに囚われない〉点まで説明できるとなおよかった。

(六) 誤答は(㌺)が目立った。本文後半に描かれている、京都の景観についての印象の変化と、「私」自身に対する思いの変化を重ね合わせている部分に注目してほしい。

古文

(一) 活用に関する知識不足が目立つ。活用形も、助動詞の接続を理解していればすぐに答えが出たものもあるので、基礎知識の習得は怠らないように。

(二) (v)「ゆゆしき」の誤りが目立つ。語義だけで(㌺)「不吉な」を選んだ答案が散見された。まずは語義で選択肢を絞るのも大切だが、必ず文脈と照らし合わせて吟味すること。

(三) よくできていた。物語では、人物関係を正しく把握することが読解の鍵となることもあるので、意識してほしい。

(四) ①よくできていた。

②「いくたり」の解釈で迷っただろう。池殿の発言の趣旨も踏まえ〈何倍も〉というニュアンスを導き出せるとよい。

(五) 〔採点基準〕

「a 頼朝を助けてやれという言葉は、b 大切に思っている池殿の願いなので断りづらいが、c 源氏の嫡子で優秀な頼朝の命を助けることはできないと思っただから。」と説明して — 10点

* a 2点、b 4点、c 4点。

〈大切に思っている池殿の願いなので断りづらい〉という要素を欠いた答案が多い。はっきりとした返事ができない清盛の気持ちを、「池殿のましますをば……」からの文脈を踏まえ、説明したい。

(六) 誤答は様々であった。どの選択肢も本文の内容をベースに立てられているので、本文に似たような表現があるからといって安易に選んでしまわないように。

(七) 〔採点基準〕

「a せめて命だけでも b 助かったならば、c どうして本来の思いを遂げないであろうか、いや、遂げよう」と訳して — 8点

* a 2点、b 2点、c 4点。

まずは逐語的に訳すことができているか、確認してほしい。助動詞や接続助詞、副詞の基本的な訳し方は必ず押さえ、細かい失点をしない現代語訳を心がけたい。

(四) 漢文

(一) 思ったより出来が悪かった。

(二) 〔採点基準〕

「a 齊王淳于髡をして b 趙に之き(て) c 救兵を請は d しむ」と書き下して — 6点

* a 2点、b 1点、c 2点、d 1点。

典型的な使役の構文なのだが、出来ていない。

(三) あまり出来ていない。まずは「何敢」の意味に忠実に考えてほしい。

(四) 「禳田者」という誤答が非常に多い。傍線部中の「其」||「禳田者」である。

(五) 〔採点基準〕

「a 齊王が、b あまりに少ない献上品で、c 楚に対抗できる規模の援軍を d 趙に請おうとしているから。」と説明して — 10点

* a 2点、b 3点、c 3点、d 2点

問題文の趣旨そのものを取り違えていると思われるものが多かったのは残念である。

(六) 〔採点基準〕

「a 趙が淳于髡に b 大量の援軍を与えたこと。」と説明して — 6点

* a 3点、b 3点。

〈誰が・誰に・何を〉を正確におさえない。